

# 学術会議の任命拒否を考える

—市民の自由は損なわれ続けるのか—

公開シンポジウム —どなたでもどうぞ—

菅首相は、日本学術会議が推薦した105人の研究者のうち**6人を任命しなかった**ことが、10月にわかりました。菅首相は「総合的、俯瞰的に判断した」と話すだけで、具体的に何が問題であったのか、説明していません。この研究者らは、これまで「共謀罪」法や、辺野古の新基地建設問題、集団的自衛権を可能にした安保法制などに対し、批判的な立場を示してきました。実は、安倍政権の下でも、政府は選べるように定員以上の推薦者を求めたり、欠員補充の人選を拒んだりしていました。

日本学術会議は、独立した立場で国の政策に学術的なアドバイスをするために、法律に基づき設立された機関です。その会員210人は、半数ごとに学術会議側から推薦者を提出し、総理大臣が任命するしくみになっています。過去の国会で政府側は、首相の任命は形式的なもので、学術会議の推薦を尊重する旨、答弁しています。

**6人が拒否された理由は、反政府的な学者だから**ということでしょうか。であれば、**学問の自由に対する大きな侵害**です。今回の拒否によって、政府の意向に沿わない研究はしにくいという圧力が生じるからです。

「学術会議に入らなくても研究はどこでもできる。学問の自由に影響はない」という意見もあります。確かに、本の検閲・発禁や大学からの更迭など戦前のような弾圧はありません。しかし**自由というものは、壊されてから気づいても遅い**のです。抵抗しようにもその自由がもはやないので。なので、わたしたちはその兆候の時点で敏感に対応しないといけません。

すでに安倍政権において、市民の自由はさまざまに侵されています。メディアの報道の自由に対する抑圧と懐柔、文化・芸術の自由に対する干渉、教育の独立性に対する統制など、多くの深刻な事態があります。

日本学術会議とはどんな組織かを知り、**今回の任命拒否がいかに暴挙であるか**を考えるため、学術会議の元副会長とともに、大学教員や弁護士を交えて討論を行います。ぜひご来場（ご視聴）ください。

**12月6日(日) 14~16時半 入場無料・申込不要**

**徳島大学けやきホール (常三島キャンパス 総合科学部2号館)**

**基調報告： 日本学術会議元副会長・井野瀬 久美恵**  
(甲南大学教授・英国近現代史) ※オンライン参加

**パネル討論： 横山良**(神戸大学名誉教授)、**齊藤隆仁**(徳島大学教授)、**遠藤理恵子**(弁護士) 司会：**饗場和彦**(徳島大学教授)

主催： 徳島大学国際政治学研究室(088-656-7186 aiba.kazuhiko@tokushima-u.ac.jp)

**ご注意** 対面式の実施を予定しますが、感染状況によっては遠隔式で同時配信するか、録画した動画をweb上にあげる方式に変わる場合があります。その場合は事前に徳島大学のホームページに示します。ご来場の折はマスクの着用をお願いします。体調のすぐれない方はご遠慮ください。大学の駐車場は工事中のため使えません。

